

令和元（2019）年度

第一回 吹田市立博物館協議会

議 事 録

日 時 令和元（2019）年5月31日（金） 午後1時30分～午後4時05分

場 所 吹田市立博物館 二階 講座室

出 席 一瀬・村田・橋爪・伊藤・佐久間・矢田・瀬尾・内山・岩崎・齋藤・喜田・八代委員

【1 開 会】 藤井副館長（出席状況の確認）

*欠席 玉置委員

*出席委員数は全委員13名の過半数を超えており、本会は成立しています。

【2 挨拶】 中牧館長 挨拶

【3 職員の異動】 報告と自己紹介（資料P2 博物館組織図・職員配置図参照）

*西本課長に代わり坂原課長、転任；柿本参事・池田主幹。

*委員に異動なし。

【4 議長・副議長の選出】 議長；一瀬委員 副議長；村田委員

【5 傍聴報告】 傍聴者なし。

【6 案件（1）事業報告（平成30年度後半～）（2）事業計画について】

（議長）案件（1）事業報告（平成30年度後半～）及び（2）事業計画（令和元年度前期～後期事業）について、事務局より説明をお願いします。

*事務局より説明。

（議長）（1）事業報告と事業計画について、ご質問ご意見はありませんか。

（議長）各委員から質問が出る前に私から一つ質問を。別紙アンケートの集計結果について年齢別来館者数で、特別展には70才代が多いとか、何か特徴的な傾向はありますか。

（事務局）従来からの傾向ですが、春季特別展の西村公朝展と秋季特別展の吹田操車場遺跡展については、内容がオーソドックスな歴史系展示であり、70～60才代の高齢者層が関心を示し多い傾向があり、逆に若年層が少ない傾向であったと思われます。企画展はニュータウンがテーマで、他に比べ40～30才台、19才以下と幅広い年代で関心が高く、今回もそのような傾向が出ています。また、夏季展示は自然系の展示で、実行委員会が中心となって運営にあたり小学生の子供向けの内容です。40代の親と小学生の子供とで来館したものと思われます。さらに、実習展は60～50・40才代が多く、

実習生の家族が来館することやリピーターが来館することも多いものです。特別企画はむかしのくらしがテーマで、60～70才代と40代、そして19才以下といった親子と祖父母の三世代で来館する傾向にあります。

(委員) p.33 の中期展示計画に関わって、今後の特別展に身近なテーマとして“災害”を入れてはどうか。市民の関心が高く来館に結びついていくのではないのでしょうか。

(副館長) 来年度の春季特別展の「神崎川の歴史と恵み」のなかでは、負の側面として“災害”についても取り上げていこうと考えています。夏季展示の展示においても、自然・災害を取り上げることは可能であり、できるだけ知恵を絞って取り組んでまいりたいと思います。

(委員) それに関連して、去年は北部地震が生起し、街中の文化財の被害もあったと聞く。災害と文化財といった展示・取組を是非取り上げてほしい。そうしたことが地域の文化財保護意識の高まりへとつながっていくと考えるので、是非検討願いたい。

(副館長) 吹田でも西尾家が現在も休館するなど文化財への被害報告があります。文化財保護のグループと共に事業展開を進めてまいりたい。

(議長) 民博も長期の休館を余儀なくされるといったこともありましたね。他には。

(委員) 西村公朝に関する展示が続くが、毎年何か趣向を変えていかないと西村公朝だけではまかなえないのではないかと。例えば、江戸時代の物とか、現代につながる何か物を借りてくるとか。計画全体の中で、この年には何をするとしたこと、予算の立て方も変わるだろうし、予め考えておかないといけないのではないかと。

(事務局) 企画展以外でも、特別展の開催を考えてはいるのですが、特別展については予算もあり関連する物の借用もして、西村公朝ファンだけではなく他の方々にも注目してもらえるモノを創りあげていきたいと考えています。

(議長) 例えば、今考えている切り口や展望は。

(事務局) 同時代の作家や清水寺において公朝に関わった仕事～といったものがひとつの切り口になるのかと思います。

(議長) 何かアイデアがあれば、出して頂けるとありがたいのですが。

(委員) 公朝と自然科学～ぐらいワープしてみても。現代美術のすごい作家とコラボするとか。

(副館長) テーマとは外れますが、実は、次の企画展で公朝の作品解説を、立命館大学のロボット研究者グループとコラボする企画があります。健都に新しくできた市民病院へロボットを駆使した生中継をする、といった新しい取組を考え中です。

(委員) なかなか面白い企画ですね。梅田の紀伊国屋へ、(吹田)市外、南の方へとアピールをしては。いずれ25年の万博で！とつながっていけば面白いじゃあないですか。

【7 案件(3) 課題討論(博物館の平成30年度事業点検・評価について)】

(議長) では、案件(3)の課題討論へと進めたいと思います。本日配付の平成31年2月12日付け「平成29年度の事業報告」完成版の中に、「平成29年度事業評価採点表」があります。これまで、分かりやすい文書を書き添えて！ということで、事務局には4頁分にまとめてもらった。平成30年度の方はこれよりも早い時期に報告書(完成版)が作成できるように、と進めていきたいと考えています。では、平成30年度の事業点検評価について事務局より説明を求めます。

*事務局より説明。

(議長) 右上の外部評価欄と評価点を委員の皆さんに埋めて頂きたい、ということですね。昨年この場でも議論のあったところですが、評価点の項目が10段階でいいのかどうか、といった疑問や評価するための実態がよくわからない、といった声を出して頂ければと思いますが、いかがでしょうか。

(議長) 皆さんに考えてもらっている間にひとつ。「当該事項に関するコメントなし」に関わって、例えば、p.42のe-mailサービスの検討というページはほぼ白紙状態。コメントがない・空欄が多い。何か理由があるのでしょうか。

(事務局) チェックシートについては、以前各委員に文章表記して頂いていました。「コメントがない・空欄が多い」というのは、項目に該当する委員からの記述がなく、空欄としていたことによるものです。

(議長) 委員の方で評価しづらい、ということではないのでしょうか。

(事務局) 平成29年度からこの項目ごとに委員に記入頂くようになりました。それまでは、全体的に細かいところまで当時は言及されていなかったからだと思います。

(議長) 地域連携が少ないのは。

(事務局) p. 43の特別利用などは、情報提供が少なかったからでしょうか、こちらの情報の出し方に問題があったからなのでしょうか。

(委員) いやいや、一昨年までは全ての項目・空欄を埋めるような進め方ではなかった。このフォーマットは平成30年度からでしょ。議長は埋めないといけないとお考えですか。

(議長) 自分は埋まっても構わないと思う。10段階の評価は評価しにくいと思っている方も多いのかと。ここは聞いておけば書ける！というのがあれば、この場に出してください。

(副館長) ご希望であれば、分担以外のところでも、書いてもらったらいと思います。

(議長) そういうことで埋めてください。

(委員) 自己点検・自己評価はもちろん大事なことだ。外部評価は改善のためのものなのか、それとも上司・上部機関に訴えるためのものなのか、積極的にコメントを埋める方向が、どういうことにつながっていくのか、どうも見えづらいのだが。

(議長) 10年間の取組について、これまでと同じように議論して、そろえて第3次へと議論を進めることができれば。

(委員) 現状のままで、コメントをする・進めるということですね。

(事務局) 平成30年度の事業についての外部評価へのコメントは、このままの形で入力してもらいたいと考えています。

(委員) 外部評価の項目で、提供される情報が少なく答えられない、と書いてあるe-mailだとかは、もう少し情報を増やしてほしい。

(事務局) 記入して頂いた上で、それでも足りない場合は情報提供をさせて頂く、ということよろしいでしょうか。

(議長) それでは、そんな形で進めたいと思います。残り時間を次の議題へと費やしたいので、第3次中期計画について事務局より説明を求めます。

*事務局より説明。

(議長) 大学では現在PDCAのサイクルが、文科省の義務づけから大切にされています。事務局はこれを改善のためのものと考えているということでしょうか。目標があって、評価が有り、次のアクションプランまでめざすということですか。先に確認をしたいのですが・・・

(委員) 私はいい方向の改善であると思います。5年間くらいの改善の計画が出てきているのは良いと思います。PDCAには予算が必要。予算立てをしない・人員を増やさない・機材を揃えないのは市が悪い。それに、10段階評価の2点をつけるのはおかしなことだと思う。こういう方向で改善をしたい！ということに対して、共感の中で悩みを出してもらい、サゼッションを与えることが大事。私たちは裁判官ではない！その中で一緒に博物館を良くしよう！という立場。5年間の課題が出てきて、それに対してこうしていこうと、予算がないのなら、工夫と知恵と外部資源でやって行かざるを得ない。私はいい方向の改善だと強く思いますよ。

(議長) 一覧表に「外部評価」という名前でもそれでよろしいですか。

(委員) 内部評価に対する助言・外部の声(コメント)という意味で「外部評価」が良いと思います。

(議長) 言葉づかいとしていいのでしょうか。委員全体の意見を。

(委員) 私は、評価をする時、内部の課題に対して、何か提案できるのはよいことだと思います。でも、やっぱり評価には基準はあるだろう。目標値は設定すべきだと思う。手法の問題かもしれないが、どうお考えですか。

(議長) 今日は、どんどん意見を出して、それを事務局に受けてもらう日です。どうでしょうか。

(事務局) 目標値に向かって頑張るというのもある。例えば、データベース化ならば5年のスパンの中で今年は設計と、いうように。デジタル化で100%に近づくように、今年はどこまで進んでいるのか、外部評価をいただく。あるいは、数値化できない場合は、年次目標でどこまで進んでいるのか、を書くとか。

(委員) 5年間で何をを目指すのかは、はっきりとしてほしい。

(議長) 改善しなければならない姿、それをどうするのか。5年間の間にどんなストーリーで改善に向けてどう進めていくのかという、プランとしてあれば、それをチェックしていけばいいわけ。

(事務局) 今回は項目を見てもらった。次回、年次計画を付け加えて進めたい。

(議長) あと10分、できるだけここに居る委員の声を出していただきたい。各委員より何かありませんか。

(委員) 第2次との比較で、とてもよく分かるようになったと思う。ただ、4つの大項目の中の4番目の項目「社会とともに」については、もう少しわかりやすくできないだろうか。

(委員) 第2次と比べて、的を絞ったテーマでされるというのは、とてもいい選択であると思う。ただ、「社会とともに」は、もう少し具体的にしてほしい。

(委員) 市の行政として、中核市となるわけだし、積極的に取り組む心構え・姿勢がほしい。

(委員) 「重点」となるものが多すぎるのではないか。

(委員) アンケートの実施について回収率が低いので、時には来館者全数調査を実施してもいいのではないか。

(委員) 具体性を持ってコメントを書くことが大切。例えば、「吹博の会」とか。

(委員) 私は中学校を代表する立場で出席させて頂いています。博物館には市内の中学生が職業体験で大変お世話になっております。また、毎年中学校教材を中学校教員と共に作成頂き、これも大変感謝いたしております。もう少し連携を深めていける点として、「学研=吹田市中学校教育研究会」との連携を進めていけないものかと考えております。もう少し授業のなかへ取り入れていけないものかと。今後ともよろしく申し上げます。

(委員) 入館者数が入っていないのが気になる。それと、自己評価欄の表現が「~しているか」と

なっているのは、「～する」でいい。その書き方が気になります。また、市民と社会、これもわかりにくい。市民は社会ではないのか、社会＝学校教育となっていていいのか。文言の整理を！

（委員）先ほどの委員の発言「私たちは裁判官ではない」に共感しました。我々がすることは博物館をお手伝いすること。あまり評価にこだわらず、例えばデジタル化ではなく、見に来て！とそんなことを言う勇気を！と思います。

（委員）児童の対応で遅れて来ました、失礼しました。昨年一年間協議委員会の委員として、小学校が博物館に隣接していることも有り、博物館の取組を身近に感じる一年でした。しかし、子供の来館は増えているのでしょうか。公費を使つての取組なので、博物館の使い方を広める立場にあると感じています。

（委員）我々の役割は、博物館の取組に意見を言うことです。この会議は、そういう意味で重要な機会です。この場で意見を言うことは、次なる活発な事業へとつなげていくことである。会議では、きめ細かく疑問点を出し、解決する必要があると思う。平成30年度の報告に対する色々な質問や疑問点、また令和2年度以降の中期計画に対する疑問点など、例えばレファレンスはできていないとなっているが、といったことを細かく確認していきたい。

（議長）皆さんの声をお聞きしますと、具体を示して！の力が強かったように感じました。重点的に項目を絞るということはバランスを欠くことでもあります。トータルに見ながら、項目を絞る難しさはあると思いますが、検討いただき、次回の3次計画は動きやすい案を示して頂きたいと思います。

（事務局）頂いたご意見を内部で検討し、10月には改良版をお示ししていきたいと思っています。

（委員）先ほど、言い忘れたが、評価として「こんなことができた！」といった自慢も出てこない、自信・自負を持って事業に取り組んでいくこともできませんよね。自慢することも重要な要素ですよ。

（事務局）自慢ではありませんが、特別展や企画展をしっかりと個別に評価してもらいたいものです。一年間の展示計画の評価と個々の評価とは別個にしたいと思っています。

（議長）ありがとうございました。これで第一回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。

（副館長）長時間、ありがとうございました。